

## 事業評価及び事業選定の方法について（案）

平成 23 年 5 月 日

平成 24 年度の事業評価及び事業選定は、「平成 24 年度国立大学法人等施設整備の方向性」等に基づき、次のとおり実施する。

なお、昨年度の実施状況を踏まえ、評価方法について所要の見直しを行う。

**1. 事業評価** [別紙 1-1、2]

各要求事業に対する評価は、次の「個別事業」の評価及び「システム改革に関する取組状況」の評価を通じて行う。

(1) 個別事業の評価

各要求事業の内容について、次の観点から評価（a, b, c）を行う。

なお、各評価項目のうち、当該事業の「教育研究等への効果」について特に重視する（昨年度と同様、当該項目の配点を 2 倍に設定）。

**【評価項目】**

- 大学等の戦略との整合性等（各法人の施設整備計画等の戦略との整合性等）
- 事業規模や費用等の適正性（改修・改築や増築の必要性、事業費用の妥当性）
- 教育研究等への効果
- 環境負荷低減のための取組
- 安全、安心の確保

(2) システム改革に関する取組の評価

当該法人の取組状況について、次の観点から評価（a, b, c）を行う。

**【評価項目】**

- スペースの有効活用に関する取組
- 施設の維持管理に関する取組
- 省エネルギー対策に関する取組
- 多様な財源を活用した施設整備
- 適正な事業執行

【昨年度からの主な変更点】

・ 評価項目の簡素化 [別紙2-1、2]

各法人における作業負担の軽減等のため、今年度から、以下の評価項目について大幅に簡素化。

— 施設マネジメントに関する全学的な体制など、各法人において取組が定着してきた項目について評価項目から削除。

— 過去に整備した事業に対する事後評価の実施状況(その後の利用状況や整備に伴う効果)について、次期施設整備5か年計画のフォローアップなど別途の方法を通じて把握することも可能であるため、今年度から削除。

### (3) 全体評価

各要求事業について、「個別事業」の評価結果(各評価項目の合計点)を基本としつつ、「システム改革に関する取組」の評価結果を勘案(一部につき加点又は減点)の上、最終的な全体評価(S, A, B, C)を決定する。

【昨年度からの主な変更点】

① 「個別事業」の評価項目の「c」の取扱いについて(全体評価との関係) [別紙3]

昨年度は、「個別事業」の各評価項目の中に一つでも「c」を有する場合、合計点にかかわらず、全体評価(S, A, B, C)も一律「C」として取扱い。

↓

今年度は、一つ以上「c」を有する場合、全体評価としての「S」は与えない(この場合は「A」とする)が、それ以外(A, B, C)は、基本的に合計点に応じた評価を与える仕組みへ変更。

② 全体評価における「システム改革に関する取組」の評価結果の取扱い

昨年度は、「システム改革に関する取組」の評価結果は、全体評価には直接反映させず、当該法人に対する事業選定の際の「足切り要件」としての取扱い(「システム改革に関する取組」の評価が低い法人については、事業選定の対象外とする)。

↓

今年度は、「足切り要件」ではなく、「特筆すべき取組を行っている法人」についてはプラス評価を、「取組が滞っている法人」についてはマイナス評価を、全体評価に対して一部反映させる仕組みへ変更(「一定の取組を行っている法人」を標準(±0点)としつつ、個別事業の評価結果による合計点に1点分を加/減点)。

## 2. 事業選定

平成24年度概算要求事業については、「国立大学法人等の施設整備に関する検討会」において決定する「事業選定の考え方」に基づき、事業評価の結果を踏まえて、最終的に文部科学省において予算の状況等を勘案の上決定する。

# 事業評価及び事業選定の方法

- 事業評価は、以下の「Ⅰ 個別事業」及び「Ⅱ システム改革に関する取組」について評価し、その結果に基づき、全体評価(S,A,B,C)を実施。
  - ・「個別事業」は、各要求事業について、カテゴリー(各大学等が、自らの戦略等に基づき要求時に選択)ごとに、以下の項目について評価。特に、「教育研究等への効果」を重視。
  - ・「全体評価」は、「個別事業」の評価結果を基本としつつ、「システム改革に関する取組」の評価結果を一部反映。
- 事業選定は、全体評価の結果を踏まえ、「事業選定の考え方」に基づき文部科学省にて決定。

## 事業評価

### カテゴリー

- ① 国際的に卓越した研究教育拠点機能の充実
- ② 国際化の推進機能の充実
- ③ 高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実
- ④ 大学等の特性を生かした多様な教育研究機能の充実
- ⑤ 学生支援や地域貢献など大学等の戦略を踏まえ必要な機能の充実
- ⑥ 附属病院機能の充実
- ⑦ 安全、安心の確保等

### Ⅰ 個別事業

- 1. 大学等の戦略との整合性等 【2点満点】
- 2. 事業規模や費用等の適正性 【2点満点】
- 3. 教育研究等への効果 【4点満点】
- 4. 環境負荷低減のための取組 【2点満点】
- 5. 安全・安心の確保 【2点満点】

Ⅱ システム改革に関する取組(※) 【特筆すべき取組を行っている法人: +1点、取組が滞っている法人: -1点】

※ 標準(一定の取組を行っている法人)は、±0点とする。

### 全体評価

全体評価	カテゴリー①～⑥ (Ⅰの全項目及びⅡ) [13点満点]	カテゴリー⑦	
		主に耐震補強 (Ⅰの1,2,5及びⅡ) [7点満点]	基幹・環境整備 (Ⅰの1,2,4,5及びⅡ) [9点満点]
S評価(※)	10点以上	5点以上	6点以上
A評価	8点以上	4点以上	5点以上
B評価	6点以上	3点以上	4点以上
C評価	5点以下	2点以下	3点以下

※ 合計点が「S」相当の場合でも、「Ⅰ 個別事業」の評価項目の中に「c」が含まれるときは、全体評価は「A」とする。

### 「事業選定の考え方」の検討

Ⅰ 個別事業

(別紙1-2)

評価項目	評価※1		
	a	b	c
<b>1. 大学等の戦略との整合性等</b>	<b>優先度が高い</b>	<b>優先度がやや高い</b>	<b>優先度が低い</b>
○大学等の戦略に沿っているか ○大学等の優先度は高いか ※ls値0.4以下の施設の耐震対策事業はaとする	すべてa	aとb	左記以外
①各大学等が策定する施設整備計画等の戦略との整合性	整合する	/	整合しない
②各大学等の優先度	高い	やや高い	低い
<b>2. 事業規模や費用等の適正性※2</b>	<b>十分に評価できる</b>	<b>評価できる</b>	<b>不明確又は妥当でない</b>
○事業規模や費用等が適正な内容となっているか	すべてa	aとb、又はすべてb	左記以外
①改修、改築や増築の必要性	十分に評価できる	評価できる	不明確又は妥当でない
②事業費用の妥当性	"	"	"
<b>3. 教育研究等への効果</b>	<b>十分に期待できる</b>	<b>期待できる</b>	<b>不明確である</b>
○当該事業により見込まれる教育研究等への効果により、一層の活性化が図られ、成果が期待できるか	すべてa、又はaとb	すべてb	△：左記以外
①これまでの教育研究等の実績	高く評価できる	評価できる	不明確である
②当該事業により見込まれる教育研究等への効果により、一層の活性化が図られ、成果が期待できるか	十分に期待できる	期待できる	"
<b>4. 環境負荷低減のための取組</b>	<b>十分に期待できる</b>	<b>期待できる</b>	<b>不明確又は期待できない</b>
○当該事業の環境負荷低減のための取組について効果が明確かつ期待できるか	"	"	"
<b>5. 安全、安心の確保</b>	<b>緊急性が高い</b>	<b>緊急性がある</b>	<b>緊急性が低い</b>
○【改修・改築事業の場合】安全・安心の確保の観点から緊急性あるか	"	"	"

※1 a：2点、b：1点、c：0点とする。「3. 教育研究等への効果等」は、配点を2倍（a：4点、b：2点、c：0点）とする。

※2 一事業の中に当該事業と関連のない施設・設備が混在している場合や、長期借入が可能な事業について長期借入金等の活用が検討されていない場合は、「2. 事業規模や費用等の適正性」は「c」とする。

## II システム改革に関する取組

評価項目	評価		
	a	b	c
<b>(1) スペースの有効活用に関する取組</b>	特筆すべき取組が行われている	/	左記以外
○スペースの有効活用に関する特筆すべき取組が行われているか	〃		〃
<b>(2) 施設の維持管理に関する取組</b>	優れた取組が行われている	一定の取組が行われている	左記以外
○修繕計画の策定において、修繕費を適切に記載等しているか ○施設の劣化状況や修繕歴等を把握している	◎が2つ以上	a及びc以外	△が2つ以上
①中長期的な修繕計画における年度・施設ごとの修繕費の記載等	◎：特に優れた取組が行われている	○：優れた取組が行われている	△：左記以外
②施設の劣化・損耗状況等の把握			
③施設の修繕費や故障・修繕歴の把握			
<b>(3) 省エネルギー対策に関する取組</b>	優れた取組が行われている	一定の取組が行われている	左記以外
○省エネ対策に関する全学的な基本方針を検証しているか ○建物ごとの光熱水量の把握・公表を行っている	◎が2つ以上	a及びc以外	△が2つ以上
①省エネ対策に関する全学的な基本方針の検証	◎：特に優れた取組が行われている	○：優れた取組が行われている	△：左記以外
②建物ごとの光熱水量の把握及び公表			
③省エネルギー対策の効果検証			
<b>(4) 多様な財源を活用した施設整備</b>	優れた取組が行われている	一定の取組が行われている	左記以外
○多様な財源を活用した施設整備を行っているか	実績又は予定があり、かつ、特筆すべき取組が行われている	実績又は予定がある	左記以外
<b>(5) 適正な事業執行</b>	優れた取組が行われている	/	左記以外
○適正な事業執行を行っているか	○又は「特筆すべき取組が行われている」が3つ以上		左記以外
①ダンピング防止対策の導入（特別重点調査等の実施）	○：実施している、又は、対象工事が無い	/	△：左記以外
②総合評価落札方式（標準型）における透明性の確保			
③低入札価格調査基準の改正			
④補助金の適正な執行に関する特筆すべき取組			特筆すべき取組が行われている



評価項目	評価		
	A	B	C
<b>システム改革に関する取組の全体評価</b>	優れた取組が行われている	一定の取組が行われている	左記以外
○システム改革の取組状況	(1)～(5)のすべてがa	A及びC以外	(1)～(5)のすべてがc

※ A：+1点、B：±0点（標準）、C：-1点とする。

### III 全体評価

評価	<b>カテゴリ①～⑥</b> (評価項目：Iの全項目及びII) [13点満点]	<b>カテゴリ⑦</b>	
		<b>耐震補強を主とした事業<sup>※1</sup></b> (評価項目：Iの1.2.5.及びII) [7点満点]	<b>基幹・環境整備事業</b> (評価項目：Iの1.2.4.5.及びII) [9点満点]
<b>S<sup>※2</sup></b>	10点以上	5点以上	6点以上
<b>A</b>	8点以上	4点以上	5点以上
<b>B</b>	6点以上	3点以上	4点以上
<b>C</b>	5点以下	2点以下	3点以下

※1 耐震補強を主とした事業：耐震補強に伴って、効率的な事業執行の観点から、当該建物の供用に当たり必要な最低限度の改修（バリアフリー、外部改修のみ）を行う場合を含む。

※2 合計点がSとなる場合でも、Iの個別事業の評価項目の中にcが含まれるときは、全体評価はAとする。

#### カテゴリ

- ① 国際的に卓越した教育研究拠点機能の充実
- ② 国際化の推進機能の充実
- ③ 高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実
- ④ 大学等の特性を生かした多様な教育研究機能の充実
- ⑤ 学生支援や地域貢献など大学等の戦略を踏まえ必要な機能の充実
- ⑥ 附属病院機能の充実
- ⑦ 安全、安心の確保等

法人番号

法人名

1. スペースの有効活用 特筆すべき取組 (自由記入)			
2. 施設の維持管理			回答欄
①中長期的な修繕計画における年度・施設ごとの修繕費への記載等	◎	主要な施設について、サービスレベルなどベンチマーキング等により設定した目標の達成を目指し、中長期的な修繕計画において、教育研究上の必要性・緊急性を勘案した上で年度・施設ごとの修繕費を記載しているとともに、達成状況の定期的な検証により計画の見直しを行っている。	
	○	中長期的な修繕計画において、主要な施設の修繕費を記載している。	
	△	上記以外	
②施設の劣化・損耗状況等の把握	◎	主要な施設について、定期的な巡回点検により劣化・損耗状況を把握しているとともに、利用者からの意見聴取等により求められる施設の機能や水準を把握している。	
	○	主要な施設について、定期的な巡回点検により劣化・損耗状況を把握している。	
	△	上記以外	
③施設の修繕費や故障・修繕歴の把握	◎	主要な施設について把握しており、中長期的な修繕計画の見直し等にも活用している。	
	○	主要な施設について把握している。	
	△	上記以外	
3. 省エネルギー対策			回答欄
①省エネ対策に関する全学的な基本方針の検証	◎	基本方針に定めた数値目標等の達成状況について、学内規程等に基づき定期的に検証している。	
	○	基本方針に定めた数値目標等の達成状況について検証している。	
	△	上記以外	
②建物ごとの光熱水量の把握及び公表	◎	主要な建物の光熱水量について、建物ごとに把握及び公表している。	
	○	一部の建物の光熱水量について、建物ごとに把握及び公表している。	
	△	上記以外	
③省エネルギー対策の効果検証	◎	光熱水量の使用状況の分析により省エネ対策の効果検証を行っているとともに、その効果検証結果に基づき、必要に応じて、省エネ対策に関する中長期計画や管理標準等の見直しを実施している。	
	○	光熱水量の使用状況の分析により省エネ対策の効果検証を行っている。	
	△	上記以外	
4. 多様な財源を活用した施設整備			
【平成20-22年度の主な実績を記載】		特筆すべき取組 (自由記入)	
【平成23年度以降の予定があれば記載】			
5. 適正な事業執行			回答欄
①ダンピング防止対策の導入 (特別重点調査等の実施)	○	2億円以上の工事について導入するよう、学内規定等で定めている。	
	△	上記以外	
②総合評価落札方式 (標準型)における透明性の確保	○	技術提案等の評価結果を競争参加者に通知するよう、総合評価落札方式の実施方針等で定めている。	
	△	上記以外	
③低入札価格調査基準の改正	○	中央公共工事契約制度運用連絡協議会モデル (H23. 4. 7改正) に基づき改正済。	
	△	上記以外	
④補助金の適正な執行に関する特筆すべき取組 (自由記入)			

## システム改革取組評価シート

法人番号     〇〇      
 法人名     〇〇大学    

①施設マネジメントに関する全学的な取組状況	
・施設マネジメントに関する委員会の開催状況と審議内容等を簡潔に記載。 ・キャンパスマスタープランの実現に向けた取組やベンチマーキング手法の取組があれば記載。	
記入欄	特筆すべき取組

②スペースの有効活用に関する取組状況	
・既存スペースの有効活用、共同利用スペースの確保、若手研究者のスペース確保に関する取組を中心に改善を行った事項を記載。 ・その際、PDCAサイクルがわかるように記載。	
記入欄	特筆すべき取組
《既存スペースの有効活用》          《共同利用スペースの確保》          《若手研究者のスペース確保》	



⑤多様な財源を活用した整備手法に関する取組状況	
記入欄	特筆すべき取組
【平成19-21年度の主な実績を記載】	
【平成22年度以降の予定があれば全て記載】	

⑥適正な事業執行に関する取組状況
記入欄
<p><b>【入札及び契約に関する情報の公表】</b>  《入札及び契約に関する情報の公表状況》  ※入札契約適正化法で250万円を超える工事は公表することとしている。</p>
<p><b>【電子入札の導入】</b>  《平成22年度における電子入札の実施予定》</p>
<p><b>【工事成績評定の実施】</b>  《工事成績評定の実施状況》  ※平成20年1月17日付け19文科施第370号で、500万円を超える工事を対象としている。</p>
<p><b>【総合評価方式の実施】</b>  《平成22年度における総合評価方式の実施予定》</p>
<p><b>【入札保証の導入】</b>  《入札保証の導入状況(入札ボンド等)(平成21年6月5日付け21文科施第6107号)》</p>
<p><b>【ダンピング防止対策】</b>  《平成22年度における特別重点調査等の実施予定》</p>
<p><b>【補助金の適正な執行に関する取組】</b>  《補助金の適正執行に関する取組内容について具体的に記載》</p>
<p><b>【補助金の早期執行に関する取組】</b>  《補助金の早期執行に関する取組内容について具体的に記載》</p>

**参 考**

法人番号 〇〇  
 法人名 〇〇大学

①・②関連データ						
<b>(1) キャンパスマスタープランに関する取組状況について</b>						
i) キャンパスマスタープランの策定の有無(1. 有、2. 無)						
ii) キャンパスマスタープランの公表の有無(1. 有、2. 無)						
iii) キャンパスマスタープランの見直し又は策定の予定時期						
iv) キャンパスマスタープランの見直しの周期						
<b>(2) 使用面積の再配分、共用スペースの確保等施設の有効活用に関する規程・方針等の状況</b>						
i) 使用面積の再配分、共用スペースの確保等施設の有効活用に関する規程・方針等の有無(1. 有 ※「有」の場合は、規程・方針等の対象範囲を記載						
						対象:
<b>(3) 施設利用状況調査の実施状況</b>						
i) 平成21年度の実施面積①						
利用状況調査の対象面積②						m <sup>2</sup>
平成21年度の保有面積③						m <sup>2</sup>
平成21年度の実施率(①/②)						#DIV/0! %
ii) 平成21年度までの実施面積④						
平成21年度までの実施率(④/②)						m <sup>2</sup>
						#DIV/0! %
④の実施期間						
<b>(4) 使用面積の再配分の状況</b>						
i) 平成21年度に再配分を検討した面積						
						m <sup>2</sup>
ii) 平成21年度に実際に再配分をした面積						
						m <sup>2</sup>
iii) 「ii」の内訳						
			配分前(m <sup>2</sup> )		配分後(m <sup>2</sup> )	
①共同利用スペース						
②事務局スペース						
③上記以外の主要諸室						
研究室						
実験室						
講義室						
〇〇室						
④その他(廊下、倉庫など)						
合 計						0
						0
再配分に当たって、工夫した点や再配分に至らなかった理由						
<b>(5) 講義室の稼働状況</b>						
学部名	講義室数	稼働率毎の面積(m <sup>2</sup> )				
		～20%	21～40%	41～60%	61～80%	81～100%
合 計	0	0	0	0	0	0
稼働率が20%以下の講義室について、理由がある場合は記入してください。						
<b>(6) スペースチャージの実施状況</b>						
i) スペースチャージに関する規程・指針等の有無(1. 有、2. 無)						
ii) スペースチャージの実施の有無(1. 有、2. 無)						
iii) スペースチャージ実施状況						m <sup>2</sup>
	利用目的	面積(m <sup>2</sup> )	金額(円/m <sup>2</sup> ・月)	徴収した料金の用途とその割合		
<b>(7) 若手研究者の研究スペース確保状況</b>						
i) 若手研究者の研究スペース確保のための規定・方針等の有無(1. 有、2. 無)						
ii) 若手研究者の総数及び独立した研究スペースがある若手研究者数等						
① 若手研究者の総数	大学院博士課程	ポストドク	助教	計		
	0	0	0	0 人		
② 独立した研究スペースを持つ若手研究者の数	大学院博士課程	ポストドク	助教	計		
				0 人		
③ 独立した研究スペースがない若手研究者の数	大学院博士課程	ポストドク	助教	計		
				0 人		

## 【記入上の留意事項】

### 〔共通事項〕

1. 平成22年3月31日現在で記載し、行数が足りない場合には適宜追加して記載すること。
2. 回答は、緑色のセルに記入する。また、有無に関する回答は、「有」の場合は「1」、「無」の場合は「2」と記入すること。

### 〔項目(1)・(2)・(6)・(7)〕

1. 規程・指針、キャンパスマスタープラン等を策定している場合は、写しを1部添付すること。ただし、昨年度に添付したものと同一の場合は、添付の必要はない。

### 〔項目(3)〕

1. 施設利用状況調査とは、学内の点検評価において、施設の有効活用の観点から施設の現状を把握するため行われている調査をいう。
2. ④の面積は、同一施設を複数回調査した場合には、重複計上はせずに計算すること。また、取り壊し等により②・③の保有面積に含まれていない施設の調査面積は除外すること。  
※平成21年度までに1回以上全調査対象施設の利用状況調査を行っている場合は、実施率は「100%」となる。
3. 利用状況について報告書等を作成している場合には、当該報告書等を添付すること。

### 〔項目(5)〕

1. 稼働状況は、附属学校及びゼミ室を除く全ての講義室について、学部単位で稼働率毎に講義室の面積を集計し記載すること。
2. 稼働率は、各大学の典型的な1週間のカリキュラムに基づく講義のコマ数を母数とし、当該講義室の1週間の使用コマ数により算出すること。

(稼働率の計算例)

- ・1週間のコマ数: 月曜から金曜(5日間), 6コマ/1日 → 1週間のコマ数 6コマ/日 × 5日 = 30コマ
- ・講義室Aの1週間のうち実際に稼働しているコマ数を22コマ  
稼働率 = [実際に稼働しているコマ数] / [1週間のコマ数] = 73%

### 〔項目(7)〕

1. 若手研究者とは、大学院博士課程学生、ポスドク、助教を指す。
2. 「独立した研究スペース」とは、若手研究者が自立した研究ができるよう支援するためのスペースをいい、実験室は除く。(例: 若手研究者のための研究室、共同利用スペース等)

③施設の維持管理に関する取組状況												
(1) 維持管理の実施状況 (選択式)				◎	○	△	回答欄					
a. 中長期的な修繕計画の達成及び見直しの状況				経年や施設の現況調査を踏まえ、建築・設備の耐用年次やコストを考慮した中長期的な修繕計画を策定するとともに、達成状況を検証し、定期的に計画の見直しを行っている。	経年や施設の現況調査を踏まえ、中長期的な修繕計画を策定するとともに、達成状況を検証し、定期的に計画の見直しを行っている。	中長期的な修繕計画を策定しているが、達成状況の検証や定期的な計画の見直しは行っていない。						
b. 施設に関する現況の把握状況				主要な建築・設備について、点検項目を定め、定期的な巡回点検等により現況を把握するとともに故障・修繕履歴等についても記録している。	主要な建築・設備について、点検項目を定め、定期的な巡回点検等により現況を把握している。	定期的な巡回点検等を行っていない。又は巡回点検等を行っている場合でも不具合による影響が大きい箇所等に限定されている。						
c. 施設現状図の管理状況				主要な施設の修繕内容を現況図に反映するとともに、管理記録、財産台帳等の電子化を推進している。	主要な施設の修繕内容を現況図に反映している。	主要な施設の修繕内容を現況図に反映していない。又は現況図を反映している場合でも特定の施設・基幹設備に限られている。						
d. 施設管理等担当職員のスキルアップ				内部研修の実施又は参加に当たり、対象者の経歴、大学経営の視点を考慮するとともに、点検保守等に関するマニュアルを整備している。	内部研修の実施又は参加に当たっては、対象者の経歴、大学経営の視点を考慮している。	内部研修の実施又は参加が行われていない。又は、行っている場合でも対象者の経歴、大学経営の視点を考慮していない。						
e. 維持管理に関する管理記録等の公表状況				管理記録等に関する情報について学内ネットワーク、又は広報誌等を通じて積極的に公表している。	管理記録等に関する情報について学内公表を行っている。	管理記録等に関する情報について学内公表を行っていない。						
(2) 特筆すべき取組 (自由記入)												
平成21年度 施設の維持管理状況				④施設の維持管理費の実績 (千円)								
参考	保有面積 (㎡)	病院以外	病院	項目	病院以外	病院	項目	病院以外	病院	項目	病院以外	病院
	①故障履歴 (件数)			修繕費			校地維持費			電話交換業務		
	②修繕履歴 (件数)			点検保守費			廃棄物処分費			資本的支出		
	③修繕計画予算額 (千円)			運転監視費			清掃費			計		
	※修繕計画策定済面積 (㎡)			緑地管理費			警備費			合計		
	④省エネルギー対策に関する取組状況											
(1) 省エネルギー対策に関する取組状況 (選択式)				◎	○	△	回答欄					
a. 省エネルギー対策の基本方針及び数値目標の検証状況				全学的な基本方針 (具体的な数値目標を含む) の目標の達成状況等を規定を定め定期的に検証している。	全学的な基本方針 (具体的な数値目標を含む) の目標の達成状況等を検証している。	全学的な基本方針 (具体的な数値目標を含む) を検証していない。						
b. 光熱水量の把握及び公表状況				建物別の光熱水量の状況について把握・分析を行い公表している。	学部 (科) 別・部門別等の光熱水量の状況について把握・分析を行い公表している。	学部 (科) 別・部門別等の光熱水量の状況について把握・分析ができていない。もしくは把握・分析はできているが公表していない。						
c. 省エネルギー対策に関するフォローアップ状況				光熱水量の使用状況の分析結果を基に、全学的な協力要請を行い、効果検証の結果を省エネルギー対策に反映・実践している。	光熱水量の使用状況の分析結果を基に、全学的な協力要請を行い、効果を検証している。	光熱水量の使用状況の分析結果を基に、全学的な協力要請を行っているが、効果の検証を行っていない。						
d. 機器・設備の運転や施設の運用及び整備に関する総合的な省エネルギー規程 (管理標準等) の運用状況				規程に基づいたエネルギー管理の状況について検証し、必要に応じ規定の見直しを行っている。	規程を整備し、これに基づいた運用を行っている。	規程を整備しているが、これに基づいた運用を行っていない。						
e. 省エネルギー対策に関する中長期的視点に立った計画の策定状況				全学的に中長期的視点に立った計画を策定済みである。	主要な団地において中長期的視点に立った計画を策定済みである。	中長期的な視点に立った計画を策定中または策定していない。						
(2) 光熱水量の実績 (平成21年度) ※面積 (㎡) は保有面積				病 院 以 外			病 院					
				実績 (量/年)	m <sup>2</sup> 当たりの実績 (量/年・m <sup>2</sup> )	前年度比 (%)	実績 (量/年)	m <sup>2</sup> 当たりの実績 (量/年・m <sup>2</sup> )	前年度比 (%)			
・燃料及び熱 (GJ)												
・電気 (千kWh)												
" (GJ)												
計 (GJ)												
・原油換算 (k l)												
上水道、下水道 (千m <sup>3</sup> )												
参考 温室効果ガス排出量の実績 (平成21年度) (tCO <sub>2</sub> )				(tCO <sub>2</sub> )								
(3) 特筆すべき取組 (自由記入)												

## 事後評価の実施体制（共通）

### 1. 評価組織（組織名称、委員の役職等）について

※事後評価を行っている組織（委員会等）の名称、委員の構成等を簡潔に記載してください。ただし、昨年度から変更のない場合は省略可。

- 例) ・組織の名称：施設マネジメント委員会  
・委員の構成：添付の委員会規程第○条参照 又は 学長、理事（1名）、学部長…  
計○名 など

### 2. 評価時期・周期について

※評価対象としている施設、評価時期、周期等を簡潔に記載してください。

- 例) ・事後評価の対象事業：施設整備費事業による施設  
・評価時期・周期：しゅん功してから3・5年目  
※病院、○○施設については、別の○○委員会で施設も含め評価している。

### 3. 評価内容・方法について

※評価内容、方法等を簡潔に記載してください。

- 例) ・施設管理システムによる使用状況調査及び○○による現地調査を実施し、○○WGにより評価を行う。  
・○○WGで、現地調査や利用者を対象にヒアリングを実施し、事業の効果及び教育研究の活性化状況を評価している。  
・学生・教職員等を対象に、当該施設の活用状況に関するアンケートを実施し、アンケート結果に基づき、○○にて審議する。アンケートの結果及び審議結果は、HPで公開する。  
・スペースの利用状況（1週間あたりの利用時間等）について調査し、必要があると認められるときは、関係部局へ意見聴取及び現地確認を実施している。

### 4. 評価結果の反映方針について

※評価結果の反映方針等を簡潔に記載してください。

- 例) ・評価の結果が良い場合は使用期間の延長等のインセンティブを与えている。  
・評価の結果が良くない場合は、学長から関係部局の長へ施設利用の見直しについて勧告を行っている。勧告を受けた部局は、利用状況や稼働率等について、役員会等に改善の報告をする。改善が見られない場合は、別の用途（共同利用スペース等）に配分する。

### 事後評価シート(個別)

#### 1. 事業概要

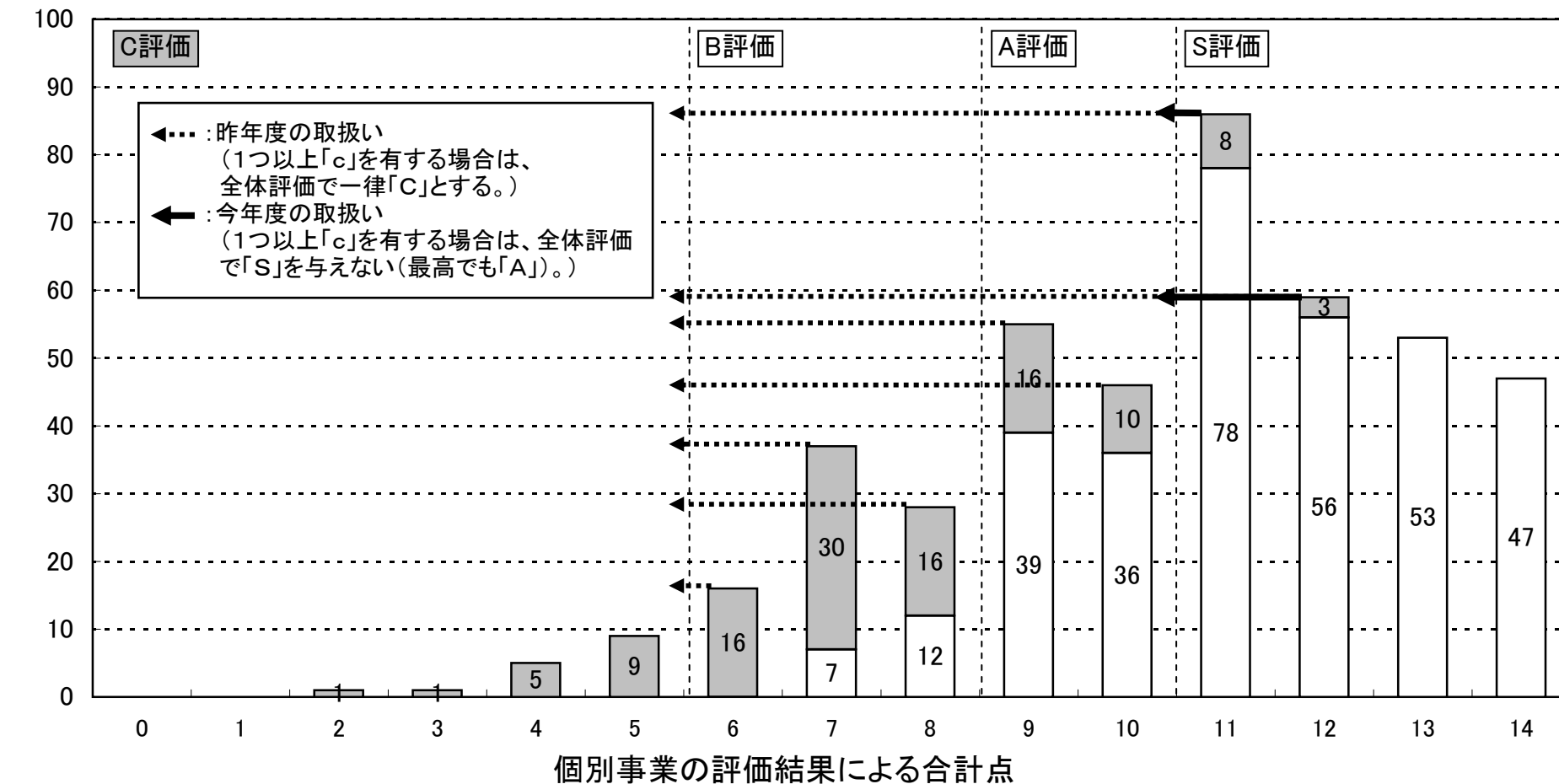
※分割で整備したが、最終的に1棟であるものは関連事業を全て記載

5か年略号	年度	事業名	構造階数	新営面積(m <sup>2</sup> )	改修面積(m <sup>2</sup> )	供用開始後年数	実態調査上の棟番号
改善-改修	H○当初	(○○)○○○改修	R4-1	○○○	(△△△)	○年○か月	○○○
改善-改修	H○補正	(○○)△△△改修	R4-1		(□□□)	□年□か月	□□□
計	-	-	-	○○○	×××	-	-

#### 2. 事後評価

	記入欄
(1)事業の目的	※事業評価シート等を基に簡潔に記載
(2)事業の概要	※事業評価シート等を基に簡潔に記載
(3)当初の整備目的と現在の利用状況について	<p>①当初の整備目的に沿って適切に利用されているか、現在の利用状況について簡潔に記載。なお、個別の研究内容の詳細については記載する必要はありません。</p> <p>-----</p> <p>【記入例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・○○を目的に整備し、現在も○○を行うなど当初の整備目的に沿った利用を行っている</li> </ul> <p>②当初とは異なる利用をしている場合には、その理由を簡潔に記載。なお、研究者の異動による研究内容の変更等については記載する必要はありません。</p> <p>-----</p>
(4)施設整備による教育研究等への効果について	<p>①施設整備をしたことによる教育研究等に成果・効果(論文数や利用者の増加等の定量的に把握できている効果や教育研究活動の活性化状況等)について記載。定量的な効果がある場合には、整備前後の状況がわかるデータも記載。</p> <p>※「第2次国立大学等施設緊急整備5か年計画の成果・効果 事例集」も参照</p> <p>-----</p> <p>【記入例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・○○を行い、新たに○○のスペースを確保したことにより、○○(学生の満足度、教育研究等)が向上・活性化</li> <li>・○○を行ったことにより、○○に関する研究が進展し、○○(論文数、特許申請件数、外部資金等)が増加(整備前 ○ → 整備後 ○)</li> <li>・○○の環境が整い、学生満足度が向上(整備前○%→整備後○%)</li> </ul>

### 個別事業の評価項目の中に「c」を有する場合の全体評価の取扱い (カテゴリ①～⑤)



※件数等は、平成23年度ベース  
※灰色は、評価の中に「c」を1つ以上有していた事業の件数